



### 内容

開かれた畜試を目指して(雑感) 長崎県畜産試験場長 深堀恵治

#### 〔研究の紹介〕

- (1) 夏期に給与するサイレージの二次発酵防止
- (2) 鶏精液の凍結保存技術(第2報)  
—オランダ原産地鶏の導入—

#### 〔情報コーナー〕

シードベレットを用いた簡易草地造成技術の現地実証

#### 〔研修エピソード〕

“半病人で行ったのが悔やまれる”

#### 〔その他〕

- (1) 海外見聞「ニュージーランドの草地畜産をみて」
- (2) 平成6年度試験研究推進会議(畜産部門)の開催



シードベレットから発芽する牧草種子(レッドトップ)

## 開かれた畜試を目指して(雑感)

場長 深堀恵治

このたびの人事異動により、畜産試験場長に就任いたしました。島原種畜場時代を合わせれば二度目の勤務となりますが、畜産全般が厳しい情勢の最中に重要な使命(任務)を受けて責務の大きさを実感しております。元来、浅学非才であります。専心努力いたす決意しておりますのでよろしくお願ひいたします。

さて、当試験場は、時代の変遷に応じて数々の研究を行い、その成果から長崎県畜産業の発展に寄与し、各々の評価を受けております。これも一重に先輩諸氏のたゆまざる努力の結晶であり、併せて関係機関並びに関係諸団体の方々のお力添えによるものと確信いたすと共に深甚の敬意を表します。しかし、過去は過去として、現状の畜産は平成3年4月、牛肉が輸入自由化されて以来、各畜種とも軒並に価格の低迷を来し、生産者は苦しい経営を強いられ、今又、ガット・ウルグアイラウンドにおける多角的貿易交渉の締結が決まり、新たな対応が迫られております。

かようなときに試験場は「如何にあるべきか」「何をなすべきか」「何ができるのか」真価が問われるところでもあります。従来から言われておりますように、生産性の向上、低コスト化、高品質化を地道に推める他に方策はないものかと試行錯誤しております。

長崎県は「農林業長期構想」「農林業生産の地域指標」また、新たに「新農政プラン」畜産では特に、「肉用牛倍増プラン」を打ち出すなど、農畜産業に積極的に取り組む姿勢を示しております。

当試験場の試験・研究の課題設定については関係機関及び団体等からも広くご意見なり、ご要望を受けた上で、推進会議において協議され、決定されたものです。因みに平成6年度の試験研究の重点方向について

紹介致します。

### 1. 酪農科

「受精卵移植技術を活用した優良雌牛の確保並びに受胎率の向上」「高泌乳牛の飼養管理技術の確立」「受精卵の低コスト化」「凍結・融解技術の検討」など。

### 2. 肉用牛科

低コスト化・高品質化を図るため、「受精卵移植技術並びに誘起多胎による双子生産と育成技術の確立」「子牛の育成技術の相違による肥育試験と産肉成績の検討」など。

### 3. 草地飼料科

「本県の気候、耕地条件に適した生産性の高い草種、品種の選定」「地域の特性を生かした牧草類の作型確立」「里山・荒畑等の有効利用技術確立のための簡易草地造成技術の検討」「ロールベール並びにロールラップによるサイレージ調製技術の検討」ほか。

### 4. 養豚科

引続き、「産肉能力検定の実施による優良種豚の選抜普及」夏期における生産性低下防止のため、特に「種雄豚の防暑対策技術の検討」「肉質向上を目指した飼料の質と給与法の検討」

### 5. 養鶏科

採卵鶏の低コスト化、高品質化を図るため、「給与飼料の栄養水準と強制換羽等を組み合わせた長期利用管理技術の確立」「つしま地鶏」を基本にした交雑利用方式の性能アップと「飼養管理技術の検討」などです。

この他、メニューに組み込まれていないものについても、重要性・緊急性等を加味しながら暫時、実施したいと思っておりますので、今後とも忌憚のないご意見、ご要望をお寄せ頂きますよう宜敷お願い致します。

## 研究の紹介

# 「夏期に給与するサイレージの二次発酵防止」

夏期に給与するサイレージは開封後二次発酵しやすいため、とくに搾乳牛においては、乳量、乳成分に及ぼす影響は大きいと考えられる。このため、蟻酸・プロピオン酸製剤をサイレージの詰め込み時に添加したものを搾乳牛へ給与し、飼料摂取量、乳量、乳成分に及ぼす影響を調査した。

### 1. 試験方法

試験は蟻酸・プロピオン酸製剤添加サイレージ区(添加区)と無添加区の2区を設定し、添加区にはサイレージ詰め込み時に現物1トン当り6kgの蟻酸・プロピオン酸製剤原液を水で2～3倍に希釈した後、ジョウロ等で散布した。

表1 養分摂取量及び乳量・乳成分

項目	添加区	無添加区	有意差検定
DM摂取量(kg)	17.26±0.39	16.91±0.85	*
TDN摂取量(kg)	12.29±0.67	11.74±0.22	**
CP摂取量(kg)	2.28±0.15	2.17±0.06	**
TDN充足率(%)	99.1±4.8	98.7±6.9	
CP充足率(%)	124.6±8.3	127.7±8.1	
乳量(kg/日)	23.8	22.5	*
乳脂肪率(%)	3.62	3.63	
乳蛋白率(%)	3.16	3.12	
乳糖率(%)	4.66	4.68	
全固形分率(%)	12.50	12.48	

\*\* P<0.01, \* P<0.05

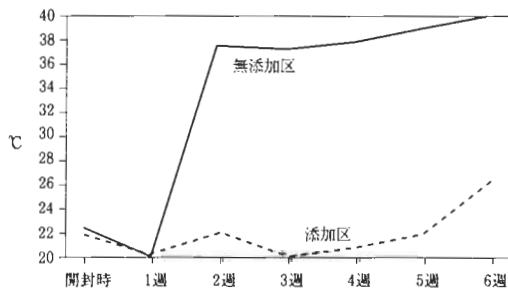


図1 開封後のサイレージの温度変化 (表層下5cm)

### 2. 結果の概要

- ①乾物摂取量、TDN摂取量及びCP摂取量は添加区で増加する(表1)。
- ②乳成分に差はないが、乳量は添加区で増加する(表1)。
- ③両区の開封時の品質に差はみられないが、無添加サイレージでは開封後2週目以降に急激な温度上昇がみられる(図1)。
- ④開封後10日目に無添加サイレージを混合飼料の材料とした場合、混合12時間後から温度が上昇するが、添加サイレージでは24時間経過後でも全く温度の上昇がみられない(図2)。
- ⑤添加サイレージは開封時及び給与期間中、腐敗による廃棄はほとんどない。
- ⑥本製剤はサイレージ調整時のみ添加するだけで、給与期間中、発熱が抑制され腐敗による廃棄量も減少するので、夏期に給与するサイレージへの添加剤として有効である。

### 3. 留意点

本製剤は有機酸で揮発性があるので、取扱うときは吸入・付着を避けるような適正な防護具をつけるとともに作業には十分注意することが必要である。

(酪農科 中里 敏)

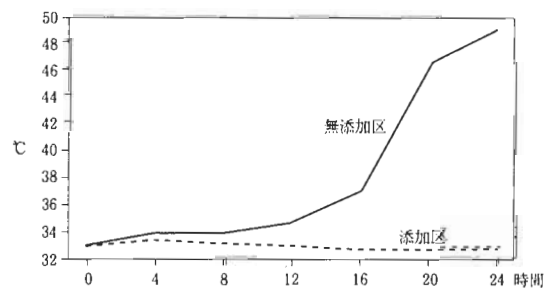


図2 混合飼料の経時的温度変化 (開封後10日目)

## 鶏精液の凍結保存技術 (第2報)

### —オランダ原産地鶏の導入—

鶏精液の凍結保存技術は、1951年 Polge らが他の家畜に先がけて成功して以来、国内外において多くの研究がなされてきた。1980年代に入り、Lake らは、Lake 液でプログラムフリーザーを用い凍結した方法で、また寺田らは、Hiroshima 液でドライアイス上でペレッ

ト化する方法で、実験室内において90%以上の高い受精率を得ている。しかし、これらの方法は、プログラムフリーザー、低温室等の機械施設を必要とすること、また操作が煩雑なことが障害となり、十分に育種に利用されていない。そこで、プログラムフリーザーを用

いない簡易で省力的な方法で凍結した鶏精液による新系統導入を試み、特産鶏の育種への活用を検討した。

供試鶏には、農水省畜試で飼養されているオランダ原産ブラバンター種の雄を用いた。この種は、オランダでもほとんどみられなくなった貴重な鶏である。この鶏は毛冠で、その前にV字型をした冠があり、肉ぜんがなく、その代わり密生した羽毛による顎髭を有しているという、変わった外観をしている。

このブラバンター種精液の凍結操作を、1989年7月24日農水省畜試で行った。グリセリン13%を含むLake液で1段階4倍希釈後、1mlストローに封入し、液体窒素蒸気で簡易凍結した。精液採取から凍結までにかかる時間は30分程度と短時間で済み、従来の方法より大幅に短縮できた。その後当场まで輸送し、融解、人口授精に用いるまで約4年半液体窒素中に保管した。

融解操作は、1994年3月10、11日、当场で行った。まず、氷水中で融解後、グリセリンを含まないLake再希釈液で25段階10倍希釈した。その後、遠心分離し、沈澱精子に再び再希釈液を加え原精液量に戻した。人工授精は、ロードアイランドレッド種の雌に0.2mlずつ2日間連続で注入した。

その結果、2回人工授精後1週間の授精率は28%と低かったが、22羽の良雛が得られた(表1)。この受精率が低い原因は、夏季に凍結操作を行ったため、精子が温度感作を受けたことが考えられる。しかし、孵化した雛は、顎髭があり、V字型の冠というブラバンター種の特徴を有していた。このことにより、鶏精液の凍結保存技術を用いて国内で40羽程度しか飼養されて

表1 2回人工授精後の受精及び孵化状況 (%)

雌No.	人口授精後日数							2～8日 後の 受精率	対入卵 ふ化率
	2	3	4	5	6	7	8		
131	◎		×	×	◎	◎	●	66.7 <sup>1)</sup>	50.0 <sup>2)</sup>
132	◎	◎	◎	◎	×	●		83.3	66.7
133	◎	×	×	×	×	×	×	14.3	14.3
134	×	×	×	×	×	×	×	0	0
157	×	×	×		×	×	×	0	0
159		◎	◎		×	×	×	40.0	40.0
160	◎	×	×	×	×	×		16.7	16.7
422	◎	×	×		×	×	◎	33.3	33.3
423	◎	×	×	◎	×	×	×	28.6	28.6
424	×	×			×	×	×	0	0
425	◎	×	◎	×		◎	◎	66.7	66.7
447	◎	×	×	×	×	×	×	14.3	14.3
448	◎	×	×	×	×		×	16.7	16.7
449		×	×	×	×	◎		20.0	20.0
受精率	75.0 <sup>3)</sup>	15.4	23.1	22.2	7.1	23.1	18.1	28.2 <sup>4)</sup>	25.9 <sup>5)</sup>

◎：正常発生 ×：未受精 ●：中止 1) 雌個体別受精率

2) 雌個体別対入卵ふ化率 3) 受精後日数別受精率

4) 全期間の受精率 5) 全期間の対入卵ふ化率

いないブラバンター種という貴重なオランダ原産の地鶏の血液を導入できた。

また、本試験の凍結操作は、プログラムフリーザー等がない場所で飼養されている特殊鶏等の遺伝資源を野外で迅速に凍結でき、長期間保存が可能である。今後は、希釈液の選定を行い受精率を高め、ますます多様化する消費者ニーズに対応した特産鶏の効率的な育種に活用できると思われる。

(養鶏科 嶋澤光一)

## 情報コーナー

### シードペレットを用いた簡易草地造成技術の現地実証

近年、農村の過疎化、高齢化のため本県では特に耕作放棄地の増加が目だっている。また、肉用牛繁殖部門においては、規模拡大とともに自給飼料生産部門において労働投下の比重が質・量ともに増大している。そこで、耕作放棄地等の未(低)利用地を永年草地化し、放牧・採草体系を導入することにより、省力化・作業の軽量化が図られ、肉用牛繁殖経営が確立できるものと思われる。そこで、低投資型の簡易草地造成技術を確立するため、当畜試では平成元年度より、里山・荒畑等の短草型草地利用技術の研究に着手し、バヒアグラスのシードペレットによる草地造成法を検討し、その成果は普及に移しえる成果として確立し、農業技術課の専技並びに農業改良普及所の協力を得て、平成4年度の江迎地区を皮切りに県下各地で実証試験を実

施し、好成績をおさめているので、その概要を述べてみます。

#### 1. シードペレットの特徴

当场で開発したシードペレット(造粒種子)は有機質堆肥を主体に土壌、ゼオライト、石灰、ヨウリンの中にバヒアグラス種子を混合させたものである。

そのメリットとしては

- 1) 吸水性に富み、かつ肥料分も含んでいるので発芽と初期生育が良好である。
- 2) 生育が早いため早期利用が可能である。
- 3) 造成方法が簡単で造成費用が軽減される。
- 4) 耕作放棄地等の未利用地が有効利用される。

#### 2. 県下各地の実証例

江迎農改管内の吉井町で平成4年度秋に播種したの

を皮切りに平成5年には平戸農改等、県北離島を中心に実証試験を実施しており、その中間成績は別表のとおりである。なお、平成6年は平戸、江迎、佐世保、五島、対馬、壱岐、長崎、諫早、大村、島原、加津佐並びに農経大畜産学科で3.5ha程度の現地実証を予定している。

### 3. 造成の要点

シードペレットは簡易造成に適用できるが次の事に

表 試験地の概要と造成手法及び試験

造成手法	D地区*	H地区	I地区①	I地区②	J地区	K地区	M地区
試験地概況	飼料畑	飼料畑	放牧	荒畑	荒畑	開墾荒畑	放牧
試験規模 <sup>1)</sup>	350	2500	800	600	600	400	100
前作・植生	飼料作物	飼料作物	野草	野草	野草	野草	一部牧草
播種期	93.9.8	92.8.31	93.6.11	93.6.11	93.7.16	93.6.28	93.10.20
播種量 <sup>2)</sup>	200	200	250	250	200	200	250
耕起の有無及び前処理 <sup>3)</sup>	有	有	無	無	有	有	無
利用形態	採草	採草	地表攪乱 放牧採草	地表攪乱 放牧採草	放牧採草	放牧採草	無処理 放牧
初期追肥 <sup>4)</sup>	無	4.8	5.0	5.0	無	無	無
発芽定着状況%	80	80	90	90	70	80	60
発芽日数	8	10	7	7	16	10	15
生育cm	50日後 <sup>5)</sup>	13.0	--	25.5	22.7	24.9	36.4
	70日後 <sup>6)</sup>	--	20.0	51.5	32.6	38.3	50.2
生草収量kg/10a	--	3700	950	700	113	--	--
乾物収量kg/10a	--	699	230	185	28	--	--
収穫要日数 <sup>6)</sup>	--	--	87	87	123	--	--
初年利用可否 <sup>7)</sup>	○	○	◎	◎	◎	◎	○

注：\*)造成2年目 1)m単位 2)シードペレットkg/10a 3)地表攪乱：低速ロータリ耕 4)N・K, 0/10a  
5)播種後日数 6)播種後から利用までの日数  
7)年内利用可能◎ 翌年利用可能○ --:利用1年目に調査予定

留意することが必要です。

#### 1) 気温・土壌湿度

バヒアグラスは暖地型牧草であるので発芽に必要な気温は本県では5～10月に得られるが5月は雑草との競合、10月は越冬の関係で回避した方が良い。また、降水量は、6・7・9・10月に持続した雨量が得られる。以上のことから、6月がベスト、8月下旬～9月上旬がベターと考えられる。

#### 2) 播種床準備

立地条件、地目に合った前準備が必要であり、機械力・畜力による前植生の処理と地表攪乱を行うことが必須である。

### 4. 今後の対応と進め方

#### 1) バヒアグラスのシードペレット

現地実証試験の結果も良好で生産農家の関心並びに購入要望も高いので、早急に供給体制を確立できるよう、行政、普及部局と検討中である。

#### 2) その他のシードペレット

バヒアグラス以外の牧草種子についても検討してきたが、現在のところレッドトップにおいてシードペレット化するメリットが大きいことが見いだされている。現在、中標高地・傾斜地向き草種として検討中である。

(草地飼料科長 山下恒由)

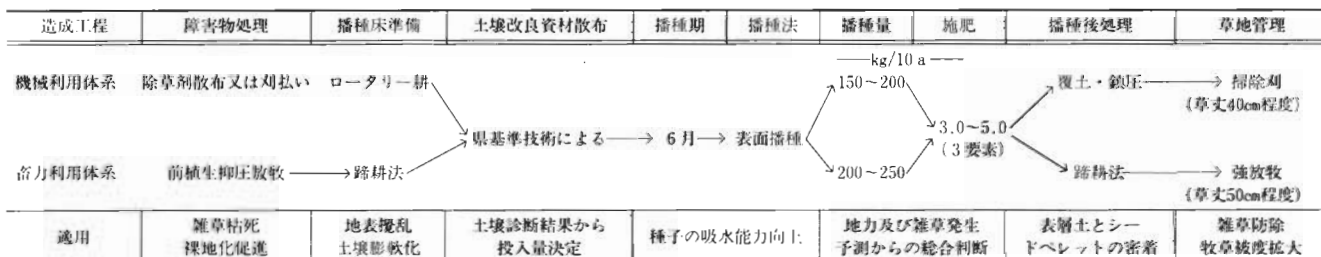


図 「シードペレットを用いたバヒアグラス草地造成設計要領」の流れ

## 研修エピソード

### “半病人で行ったのが悔やまれる”

なんともつらい一日である。今年は異常なほど雨が多く真夏の8月中旬なのに全くと言っていいくらい日が照らない。なのに体がきついのである。ここ(九州農業試験場飼料作物研究室)に来る2日前まで冷房が効いて、白衣の天使が目の前を飛び交う病室のベッドに45日間も何もせずゴロンとしていたせいと思うが、長いことサッカーをしていたのに何とも情けない事である。今日はここに来て4日目、雨が降り出しそうなか、私の研修課題と関係ある「夏播き飼料作物播種作業省力化技術」という試験の中のスラリー散布作業である。散布水準を変えて行なうのだがタンクに汲み上げるためのポンプの馬力が小さ過ぎて上手くいかない、

ペースト状になったスラリーが負荷が大きくて流れないのである、貯留槽を棒でかきまぜたり、ホースを上げたり下げたり想像以上の肉体労働、その上にふん尿まみれ「ここに来てまでも筋肉労働か」と体力が無いためか大げさに感じてしまった。

研修期間は3カ月、H5年8月16日～11月15日まで「夏播き飼料作物の省力栽培技術」という課題の研究である。課題の背景を簡単に説明すれば、畜産業をやって行く上で飼料づくりが一番大変で労働過重になっている。それが経営拡大や継続のネックになっているので少しでも飼料作物栽培が楽にならないかという研究で、前作の後、部分耕起+施肥、播種、鎮圧を同時

に行う方法を確立する試験に望んだわけである。外の仕事が多いというのは解っていたし十分に慣れているつもりでいたが、入院生活の影響は思った以上に大きく最初の一カ月間は迷惑のかけ放しで青白い、いや青黒い顔で時差ボケのような生活を送った（実際は時差ボケなる経験は無いのだが）。

ところで、「執筆者は入院と書いているがどうしたのだろう」と心配して下さるみなさんに少し説明しておこう。この畜試だよりが発刊される頃はブラジルカイトリアが優勝していると予測するが、そう、小生はワールドカップと言え、Jリーグと言えそのサッカーを楽しむ1人なのだが、それでケガしてしまったのである。後はいろいろほざいて下され。

そんなこんなで試験研究の方は、さすが国の試験場と思わせる適確なアドバイスがあり妻子を長崎に残して学生気分になったのが良かったのか順調に進み、短い期間であったがよい成果が出せた。そして何よりも国の人達と知り合いになれて連絡等が気軽にできるよ

うになったのがすばらしい収穫だった。

研修は良くできたと自画自賛するが、悔やまれるのが、スポーツができなかったことと学生時代の友人が仕事に就いたらもう昔のように遊んでくれなかったことである。職員の人達がテニスをするのを観るとストレスとフラストレーションが溜まって来てやり切れなくなる、そうなると思えば飲みに行きたくなるが友人の都合がつかない。しょうがなく1人で飲みに行くと、これがつまらない（時にいいこともあったが?）。

研修が終る頃は、入院生活のボケもとれ、悔やまれるが直ぐにでもスポーツができるようになっていた。この研修が何となく職場復帰のためのリハビリ期間であったような気がする。

最後に、九農試の先生を初め関係機関、畜試の皆様がこの研修が有意義で、体に良かったことと、1人で飲みに行けるようになったことを感謝します。

（草地飼料科 園田裕司）

## その他

### 海外見聞

## ニュージーランドの草地畜産をみて

平成6年6月7日から約1週間、ニュージーランドを訪れた。目的は観光と草地畜産を見学するためである。N.Z.Official Yearbookのデータによると、ニュージーランドには羊7,000万頭、牛780万頭、山羊50万頭が飼育されている。ちなみに国家人口は約350万人であり、この数字からもお分かりのとおり、同国の主要産業は畜産である。それも草食家畜中心で放牧による飼養であるからまさに草地畜産である。さらに、これらに付随するかたちで草地学の研究実績もAll Blacksと同様に世界1と称されている。今回の観光と見学で印象に残ったことを2・3紹介する。

**草地関係：**果てしなく続く永年草地の正体は、ペレニアルライグラスとシロクローバの混播を主体としていた。特にシロクローバ（品種；フィア）は超小型である。以前にこの国の育種学者が「このクローバの普及は世界を制覇するだろう」と豪語していることを文献で読んだ記憶がある。日本と全く違う点はこちらを見事なほど短草高利用していることである。伸びすぎた草は全く目につかず、ほとんどの牧区で草高約5cm～10cmで維持管理されているのは驚きであった。草地の隅にはロールペールサイレージが雑然とおかれていた。さらに、ギシギシ等の雑草も山羊の餌にするほどである。このように、この国では草地からの産物を“ドケチ”というくらい最大限に産肉利用する。いわば、生える草は全て家畜に食わせる飼い方であるが、しばらく眺めていて、この土地の産業としての畜産経営はこうでなければ成り立たないのかも知れないと感じた。

**家畜関係：**飼養形態は100%放牧とみてよい。しかも、無畜舎方式である。牧場経営者は羊・馬・牛・山羊を飼養しており、先行後追い放牧と混牧を高度に利用して管理している。上述した短草高利用の秘訣は放牧管理技術にあるといっても過言ではないと思われる。羊の管理は牧羊犬が行っており、数える気にもならない羊の大群をスピーディーにまとめて毛刈小屋に追い込む一連の動作は拍手したくなるほど見事であった。

**その他：**ニュージーランドはその昔先住民族であるマオリ族が土着していたが英国領となり、文化は誉れ高き英国の伝統と気風を今だに残している。特にChristchurchは別名ガーデンシティとも呼ばれ、英国より英国らしい町と思えるほど整備されており、庭園は市民のステータスシンボルのごとく管理されている。公共の施設の多くはゴシック風に建造され、まさにエレガントという印象を受けた。しかし、その英国人の気風ゆえにプライドが高く失業率も高いことも同時に耳にした。滞在期間中は主にステーキを試食したが、噂には聞いていたが、そのボリュームにはタマゲテしまった。Queenstownのステーキハウスでは、私のスリッパほどのステーキが2枚でてきたので、ウエイトレスに“この肉はどれくらいの重さがありますか？”と尋ねたつもりが“あなたの体重はどれくらい？”と反対に聞かれたので“私の体重は72kg、このステーキの重さはどれくらいですか？”と聞き直して、ようやく“600g”との答えが返ってきた。ステーキを食べながら自分の英会話の未熟さを痛感しつつも全て食べ尽く

した。ついでにいうと、ビールもワインも安くおいしく、人々も皆親切で、訪れるところの自然や風景はも

う一度振り返りたくなるほど美しく快適な旅となった。  
(草地飼料科 富永 祥弘)

## 平成6年度試験研究推進会議(畜産部門)の開催

平成6年度試験研究推進会議(畜産部門)が、去る6月14日、当場の別館2階会議室において、県畜産課長を始め、行政、試験、普及、団体等の畜産関係職員約60名を集めて開催された。

この会議は、毎年度始めに、試験研究を効率的に推進するために、開催されているが本年度は、「成果情報」13題と「要望問題」33題を中心に検討された。

「成果情報」13題の内訳は、別表1「成果情報課題一覧」のとおり、普及に移しうる成果4題、技術指導の参考となる成果5題、研究に有効な成果4題であった。

これら「成果情報」の詳しい内容については、後日「普及技術情報」として印刷物(研究関係を除く)にして、各指導機関に配布されることになっているので、農家指導の現場で十分活用されたい。

また、「要望問題」として提案のあった33題は、酪農関係1題、肉用牛関係14題、養豚関係6題、養鶏関係3題、草地飼料作関係6題、その他3題で、例年どうり、肉用牛関係の「要望問題」の多いが目立った。

平成7年度の新規試験研究課題として計画されたの

表1 「成果情報課題一覧」

区分	課題名
普及	1. 夏期における蟻酸・プロピオン酸製剤添加サイレージ給与 2. 長崎県におけるトウモロコシ南方さび病の発生変動と抵抗性品種 3. 主要飼料作物における長崎県標準飼料成分表の作成 4. シードベレットによるバヒアグラスの草地造成実用化技術
指導	1. 脂肪酸カルシウム給与等の魚粉添加による乳蛋白質率低下防止 2. 交雑種産牛の肥育成績に及ぼす産次の影響 3. 混合飼料を給与した黒毛和種去勢牛の肥育成績に及ぼす肥育期間の影響 4. レッドトップの初期生育を促進するシードベレット化技術 5. 新聞故紙の堆肥化副資材としての利用
研究	1. 牛低ランク胚の有効活用 2. 牛の筋繊維型と産肉性との関係 3. DVR法を用いた飼料用とうもろこしの糶糸抽出期予測 4. 鶏精液の簡易凍結による育種への活用

表2 「新規試験研究課題計画」

課題名	科別
1. 暑熱時の乾物摂取量に及ぼす要因の解明	酪農科
2. 核移植を行うドナー割球の性判別	"
3. 肥育素牛の低コスト生産に関する研究	肉用牛科
4. 長崎県繁殖雌牛の哺育能力向上に関する試験	"
5. 肥育素牛の効率的育成技術の確立	"
6. 黒毛和種去勢牛の肉色改善試験	"
7. 地域未利用資源の飼料化技術の開発	草地飼料科
8. 家畜糞尿中の負荷物質低減に関する研究	養豚科

は、別表2「新規試験研究課題計画」のとおり、全部で8課題であったが、そのうち、「要望問題」から採択されたのは、「長崎県繁殖雌牛の哺育能力向上に関する研究」、「黒毛和種去勢牛の肉色改善試験」、「地域未利用資源の飼料化技術の開発」の3課題であった。

そのほかの「要望問題」については、現在、実施中の試験研究課題や、既存の文献資料等により対応することになった。

本年度の推進会議は、例年になく活発な討議をいただいたが、この推進会議は、毎年度始めに開催されることになっているので、今後とも、関係職員多数の出席を得て、各関係機関の意見を試験研究に反映されていきたい。

### 人の動き

平成6年度の人事異動は次のとおりです。

#### 転入者 平成6年4月1日付

氏名	新所属	旧所属
深堀 忠治	場長	中央家畜保健衛生所長
原口 哲彦	総務課長(参事)	島原保健所総務課長
佐々木正憲	酪農科長	中央家畜保健衛生所五島支所長
白石 博	総務係長(副参事)	" 総務係長
緒方 剛	草地飼料科研究員	五島畜産技術センター技師
永井 晴治	酪農科技師	新規採用
森瀬 丈博	酪農科技師	"

#### 転出者

氏名	旧所属	新所属
中村 昌弘	総務課長	小浜保健所総務課長
山下 達夫	酪農科長	農林部畜産課畜産経営班課長補佐
山本 和利	酪農科研究員	県南家畜保健衛生所主査
山形 雅宏	肉用牛科研究員	農林部畜産課技師
後田 正樹	草地飼料科研究員	種畜場技師

#### 退職者 (3月31日付)

氏名	旧所属
山本 博康	場長
池田 貞生	総務係長
森 溜行	養鶏科技師
太田 薫	養豚科技師

#### 場内異動

氏名	新所属	旧所属
宮園 歴造	肉用牛科専門研究員	養豚科専門研究員
久保 光	養鶏科技師	酪農科技師
松本 峰治	草地飼料科技師	酪農科技師
高木 秀夫	酪農科技師	肉用牛科技師
野田 基統	養豚科技師	草地飼料科技師

## 畜試だより

No.14 平成6年7月

編集・発行 長崎県畜産試験場

TEL 0957-68-1135

〒859-14 長崎県南高来郡有明町湯江丁3600